

## 圧倒的少人数教育の推進 —甲南大学の新機軸（2）—

### アクティブラーニング と “顔のわかる”少人数教育

これまで日本の大学教育では、教員から学生に一方向的に知識を教授することが標準的な形態でした。多くの大学が300人規模や500人規模という大教室を備えているのは、そのためです。しかし複雑な現代社会で活躍するためには、**自分で課題を発見し、解決方法を考える力**が必要になります。そのため大学の授業においても、**単なる知識の教授に留まらず、学生が自ら考え行動することを促す**ことが必要です。それを実現する方法のひとつが能動的学習、つまり「アクティブラーニング」です。

アクティブラーニングを促進するために、ゼミだけでなく通常の講義においても、教員と学生の双方向的なコミュニケーションが成立し、学生の授業参加が深まるような、学習環境の整備が重要です。それを甲南大学では「圧倒的少人数教育」という目標を掲げ、実現していきます。具体的には、**講義1クラスの受講生が100名以内**になることを最終的な目標として、**段階的に少人数教育を進めていきます**。

#### アクティブラーニングの推進

甲南大学では、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、グループ・ディスカッション、ディベートなどアクティブラーニングを推進する新しい授業形態を拡充しています。そのための環境整備として、2013年度にはゼミ室、2015年度からは中規模教室もアクティブラーニング仕様に改装しています。これらの教室を利用することで、ゼミ・授業におけるグループワークや討議が活性化しています。また、アクティブラーニングの柱となる**PBL（Project-Based Learning）のプログラム**を開発・展開しています。さらに学生が自主的に集まって議論したり、グループ学習ができる場であるラーニングcommonsを学内各所に整備・拡充しています。



#### “顔のわかる”少人数教育 -学生と教員の距離の近さ-

甲南大学は、旧制高校の伝統を継承する中規模総合大学であり、教員と学生の距離が近いことを大切にしてきました。文系学部のゼミや理系学部の研究室では、**教員が学生一人ひとりを知っている、“顔のわかる”少人数教育**を実現しています。大規模教室における大人数を対象とした講義は、段階的になくしていきます。



#### 教育学習支援センターによるサポート

甲南大学は、2015年4月に「教育学習支援センター」を開設しました。個人でも、グループでも、学習を進めるうえでの各種サポートを受けることができます。具体的には、グループワークにおける助言、ライティングサポート、学生アシスタント等の育成（Teaching is Learning, TIL 制度の整備）があげられます。教育学習支援センターの教職員が学生をサポートするだけでなく、学生同士が互いに教えあい学び合う仕組みや環境を整えていきます。